

「広島神楽」定期公演へようこそ!

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます。
当公演では、全てのお客様に気持ちよく神楽を鑑賞していただくため、下記のルールを設けています。
ご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

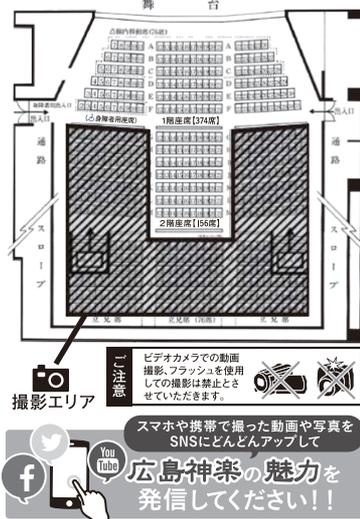
- (1) 座席での**飲食は出来ません**。ロビーをご利用下さい。
- (2) 上演中の立ち歩きや大声での私語など**他のお客様のご迷惑になる行為**はご遠慮下さい。
- (3) お子様連れの方は、お子様が舞台の前に出られると、演出等で**危険な場合**がございます。**着席**での鑑賞をお願いします。
- (4) 撮影について

→写真撮影は右図の**撮影エリア**で行って下さい。
※ビデオカメラでの**動画撮影**、**フラッシュの使用は禁止**します。
(マスコミ関係など主催者の許可を得ている場合を除く)

以上です。どうぞ、最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

撮影エリアについてのご案内

写真撮影をご希望の方は必ず、下記の撮影エリアをお願いいたします。



4月5日のタイムスケジュール

出演：あさひが丘神楽団（広島市）

19:00～開演

19:05～第一幕『源頼政鶴退治』
(およそ40分)

～幕間(休憩)～

20:00～第二幕『日御碕』
(およそ40分)

20:45～記念撮影会

衣装やお面を実際に見ていただき、記念撮影をしていただけます。携帯電話での撮影も大歓迎です。
本日の記念には是非ご参加下さい。
また、神楽団との交流もしていただけます。疑問に思ったことなど、直接団員にお聞きください。
(舞台へは靴を脱いでお上がください。)
※記載の時間は目安です。多少前後する場合がございますので、あらかじめご了承ください。

あさひがおかかぐらだん

あさひが丘神楽団プロフィール ～広島市安佐北区～

昭和62年に発足したあさひが丘神楽団は、「振興団地の中に郷土芸能を」という取り組みの一環としてスタートしました。

古き伝統の旧舞、新しい時代の新舞を伝承し、神楽奉納を通じて神楽に息づく思いを後世へと伝えていけるよう団員一同精進してまいります。

第一幕『源頼政鶴退治』(みなもとのよりまさぬえたいじ)

平安時代末期、毎夜丑の刻になると「ヒョ～ヒョ～」妙な唸りとともに東三条の森から黒雲がわき、御所・清涼殿の上を覆い尽くすと、帝はひどくうなされ、病魔に侵されてしまいます。この何者ともつかぬ相手の退治を帝は弓の名手として名を馳せていた源頼政に命じ、頼政は家来の猪早太と共に森へ向かいます。

頼政は神明神社に大願成就の祈願を込め、五月の月の冴えわたる丑の刻、その日も突然に東三条の森から黒雲が立ち始め、みるみる清涼殿を覆う中、何か動く影が見えました。

頼政はすぐさま弓に山鳥の尾で作った尖り矢をつがえ「南無八幡大菩薩」と念じ、矢を放ちます。

すると、奇怪な声をあげ、庭先に落ちてきたのは、頭は猿、体は狸、手足は虎、尾は蛇の奇怪な獣・鶴(ぬえ)が登場し、格闘の末、見事退治するという物語です。

【出演】	大太鼓 … 小田 徹也	源 頼 政 … 石 橋 一 樹	鬼 … 古 岡 和 芳
	小太鼓 … 山 本 成 希	猪 早 太 … 藤 本 靖 浩	鶴 … 山 田 悠 人
	手打鉦 … 山 本 弘 貴		
	笛 … 藤 田 菜 緒		

第二幕『日御碕』(ひのみさき)

神代の昔、天照(あまてらす)、素戔嗚(すさのお)の誓約の折、剣から生まれた内の一柱「田心姫(たごろひめ)」は、父・素戔嗚の荒き気性を受け継ぎ、高天原を追放され、記憶、言葉を失い、出雲の地へと流れ着きます。

幾年か過ぎたころ、空に怪しい赤雲が立ち上ると、すべてを思い出した田心姫は、出雲の大社の加護を被り、変事の元凶を尋ねます。

無量不変の風に吹き流され、異国より流れ着いた彦羽根は、陸地を定め、我がものとせんと悪逆の限りを尽くします。田心姫はこれを討ち、羅刹を従えし姫神・十羅刹女(じゅうらせつにょ)と名乗り、庶民、仏法、幼子の守り神となるという物語です。

【出演】	大太鼓 … 下 田 敏 則	田 心 姫 … 山 田 悠 人	賊 … 古 岡 和 芳
	小太鼓 … 藤 本 靖 浩	彦 羽 根 … 小 田 徹 也	賊 … 山 本 成 希
	手打鉦 … 安 部 憂 大		
	笛 … 山 本 美 波		

※出演者は予告無く変更になる場合がございます。